

令和 7 年度 第 2 回備前市総合教育会議 要約議事録

1. 会議概要

会議名	令和 7 年度 第 2 回備前市総合教育会議
日時	令和 7 年 12 月 18 日(木)11:00~12:00
場所	備前市役所 4 階 1-2 会議室
出席者	長崎信行 市長、小郷康弘 教育長 教育委員: 田中道生、立花 朗、原田千曉、鷲尾政幸 事務局: 榎 企画財政部長、木和田 企画課長、後藤、岩崎 教育委員会事務局: 久保山 教育振興部長、杉田 生涯教育部長、 春森 教育政策課長、他担当課長

2. 議事内容

(1) 開会あいさつ(企画課長)

前回会議での委員意見を踏まえ、以下の点について協議

- 教育に関する事業取組のデータ分析に基づく検証
- 子どもから大人まで全ての市民に向けた分かりやすい教育大綱の策定
- 事前質問に対する担当課からの説明後、教育大綱案についても協議

(2) 協議事項 1:総合計画に示す教育、文化に関する施策の取組状況について

① 原田委員からの質問に対する回答(教育政策課長)

ア. 就学前教育:保育教諭の質の向上

- 目標指標: 保育教諭 1 人当たりの年間研修受講回数
- 取組内容: 経験年数に応じたスキルアップ研修、メンタルケアの強化、保護者対応など

イ. 幼小接続

- 令和 5 年度から接続マネージャーを配置し取組。指標から除外(予定)だが接続カリキュラムは、各園各校で継続活用

ウ. 外国語教育環境

- ALT の大幅増員により、英語に触れる機会が増加。子どもたちの英語への壁が低下
- 小学校外国語活動でのアウトプット場面でのネイティブ英語に触れる効果が大きい

エ. 読書意欲

- 貸出冊数実績: 小学生 87 冊、中学生 20 冊(全国平均を大きく上回る)
- 図書館司書全校配置の効果が表れている

オ. 伝統文化の継承

- 出前授業、備前市美術館での史跡解説など郷土学習を通じた取組
- 学校と地域の協働に向けた情報共有・協議を推進

② 鷲尾委員からの質問に対する回答(教育政策課長)

ア. 生涯学習の充実

- 地域学校協働本部を中心とした活動、家庭教育・青少年健全育成、奨学支援の 3 本柱
- 地域学校協働本部を中心に、地域専門家・高齢者の授業参加
- 就学前教育・入学説明会での親向け講座・ワークショップ

- ・ 貸与型及び給付型奨学金、奨学金返還補助

イ. 地域学校協働活動推進委員

- ・ コミュニティスクール導入に合わせて委嘱。地域と学校の橋渡し役
- ・ 資格要件:地域で社会的信望があり、地域学校協働推進に熱意と識見を有する者

ウ. 図書館登録率向上

- ・ 新図書館建設により蔵書数増加、学習室設置など魅力ある図書館へ
- ・ 読書週間イベント・読書まつりに加えた新企画の検討

エ. ALT活用の多様化

- ・ 授業内外での多様な活用:少人数指導、国際交流、自然な英語コミュニケーション等
- ・ 総合学習として、国際交流・異文化理解の探求学習にも寄与

オ. ICT活用推進

- ・ 1人1台端末更新、高速インターネット環境実現、ネットワーク統合等を推進
- ・ 教員用端末を1台に集約、高度なアクセス制御とセキュリティ強化
- ・ 校務システムのフルクラウド化と学習支援ソフト・電子黒板などの活用

カ. スポーツレクリエーション活動推進

- ・ 県立体育施設は老朽化対策を優先
- ・ 県立体育施設の誘致は困難な状況

③ 質疑応答

説明に対する質問はなく、次の議題へ移行

(キャッチフレーズについては、以降で記載)

(市民一人当たりの公民館利用回数は資料を参照)

(3) 協議事項 2:備前市教育に関する大綱の見直しについて

① 基本理念・キャッチフレーズの検討

現行:「教育のまちづくりをみんなで創る ~すべては子どもたちのために~」(平成27年策定時から継続)

- ・ 参考資料として複数のキャッチフレーズ案を提示

② 委員からの主な意見

【原田委員】

- ・ 問題提起:「すべては子どもたちのために」は子どもに特化しすぎ。全ての人に関わる言葉にすべき
- ・ 提案:大人も学び輝けば、子どもはその姿を見て学び輝く

【田中委員】

- ・ 誰に発信するのかが重要。一般市民が「子どもだけが対象」と思われないか懸念
- ・ 「目指します」という表現は消極的。もっと積極的な言葉がよい

【立花委員】

- ・ 前回策定時:全市民を対象としつつ、主題と副題で役割分担
- ・ 全市民を含めた理念を作り、焦点を副題や本文に盛り込む形がよい
- ・ 重点取組方針は順位をつけるべきでない。すべてが重要なので並列で扱う方がよい

【鷲尾委員】

- ・ 「夢中が伸ばす無限の可能性」という言葉が良い。可能性を感じさせる表現が必要

③ 教育長からの重点方針提案

【小郷教育長】

- a. 心の教育を最優先:「知・徳・体」ではなく「徳(心)」を重視。心の成長が自己管理能力向上につながる
- b. 備前市の地域資源の活用:旧閑谷学校と論語:観光面だけでなく教育的アプローチを重視
備前焼:作品だけでなく、作る「人」にフォーカス。作家の情熱から学ぶ
- c. これらの要素を教育大綱に盛り込んでほしい

④ 市長からの補足意見

【長崎市長】

- a. 備前焼作家の一生懸命な姿勢を子どもたちに見せたい
- b. 熊沢蕃山の再評価の必要性
- c. 重点取組方針の文言は精査して、要約する方向で

⑤ 事務局からの補足説明

- キャッチフレーズは【基本目標】【基本方針】【重点取組方針】と総合的に組み合わせて検討

3.まとめと今後の予定

主な論点

1. 基本理念の対象:全市民(子どもから高齢者まで)を対象とすることは共通認識
2. キャッチフレーズと重点取組方針との関連性:この2点を総合的に組み合わせて検討
3. 重点取組方針に順序付けはしない
4. 地域資源の活用:心の教育、旧閑谷学校・論語、備前焼、熊沢蕃山の再評価
5. 教育委員会と市長部局との協働等:地域との連携も必要で、そのためには、「みんながつながり、みんなでつくる」という意味が実感できることばかりが必要

今後の予定

- 次回会議:第3回は1月22日(木)教育委員会議終了後
- 協議予定:事務局が大綱案を再調整して事前送付、当日に大綱案の協議
- パブリックコメント:大綱案を決定後、2月中を目途に実施
- 新たな教育大綱を決定:2月末を予定

4.添付資料

- 次第
- 質問票・回答票
- 資料:公民館利用者数
- 参考資料:キャッチフレーズ案
- 資料:備前市教育に関する大綱(案)

以上